

KIKUTAKE 校長通信

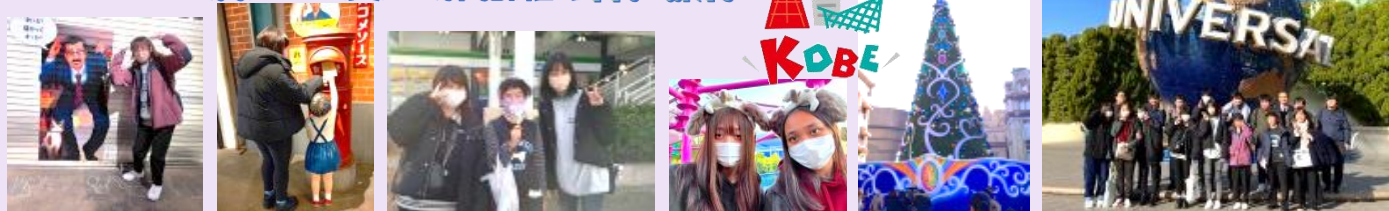
令和4年度 12月号 第93号



2022.12.8(木)~9(金) 3年生の京都旅行



2022.12.12(月)~13(火) 専門課程の神戸旅行



いのちの根

植物にとって根っこは水や養分を吸収したり、体を支えるための大切な器官です。

根っこがなければ、植物はたちまち干し上がってしまうし、根っこが十分に張っていないと、茎が簡単に倒れてしまいます。人間にとっても同様で、「根っこ」は大切なものです。

「根気」や「根性」「根本」など、「根」という言葉が人の本質を表わすことからそれがわかります。

それでは、その根はいつ伸びるのでしょうか。

水栽培されているヒヤシンスなどを見ると、短い根が出ているだけで、根っこはあまり伸びていません。

水が十分にある条件では、必要以上に根を伸ばす必要がないからです。逆に水がないところでは、植物の根は水を求めてグッと深く伸びてきます。そして、四方八方に張りめぐらされた根が、大地をしっかりとつかみます。

根が成長するのは、条件に恵まれたときではなく、苦しいときにこそ、根が伸びます。

恵まれたときは、茎を伸ばしたり、葉を茂らせるのに忙しくて、根は伸びている暇がありません。干されたときこそが、成長のチャンス。土の下に伸びた根っこは、目に見えませんが、その植物の実力そのものです。何も無い、平穏無事な日々だったら、根っこがあろうが無かろうが問題ないのでしょうか。しかし、何かあったとき、有事のときこそ、根っこの深さや強さが試されるのではないのでしょうか。

